

強くしなやかな  
JR産業を築くために  
組織と運動を磨き、責任ある活動を  
全力で推し進めよう!

http://www.jr-rengo.jp



# JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

**日本鉄道労働組合連合会**  
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10  
東興ビル9階  
TEL (NTT) 03-3270-4590  
FAX (NTT) 03-3270-4429  
1部20円(但し組合費を含む)  
●発行者 荻山市朗 ●編集者 宮野勇馬

facebook  
JR連合

(旧 twitter)  
JR連合

## JR連合国会議員懇談会・21世紀の鉄道を考える議員フォーラム JR連合の要望に基づく発言

第213回通常国会では、JR連合と連携する国会議員がJR産業に関連する多くの質疑を委員会等で展開した。これまで政策課題などを共有してきた大きな成果であり、引き続き政策課題の解決に向け、連携して取り組んでいく。

### ■JR四国の経営課題について

4月24日に開催された衆議院・国土交通委員会では、JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム(以下「議員F」)」に所属する白石洋一衆議院議員が質問に立ち、JR四国への経営支援や四国への新幹線導入について発言。また、5月28日には参議院・総務委員会において、JR連合「国会議員懇談会」で幹事を務める広田一参議院議員が質問に立ち、四国において再構築協議会設置の対象となる3線区における事業者と沿線自治体との協議の進捗や国の考えを問うた。



### ■リニア中央新幹線について

4月17日の衆議院・国土交通委員会では、古川元久衆議院議員(議員F)が質問に立ち、リニア中央新幹線の2027年開業が難しくなった旨の報道等に連れ、これに対する国土交通省の受け止めを確認するとともに、4月18日の参議院・国土交通委員会では、三上えり参議院議員(議員F)が、工期延伸の見込から「JR東海の財務にも悪影響を与えかねない」と指摘した。



4月19日の衆議院・国土交通委員会において伴野豊衆議院議員(国会議員懇談会副会長)は、二拠点居住を通じて地方への人の流れを創出・拡大するための「広域的域域活性化基盤整備法改正」に関する質疑に絡め、「過去、リニア中央新幹線と国会移転を連動させた計画を発表した学者もいた。こういう考えも必要なのではないか」と問うた。



### ■JR北海道・JR貨物の経営課題、「再構築協議会」について

3月22日の参議院・国土交通委員会では、私鉄総連出身の森屋隆参議院議員(議員F)が質疑に立ち、3月15日に政府支援策が決定した、JR北海道とJR貨物の経営自立に向けた課題、北海道新幹線の札幌延伸に伴う課題、JR北海道における若手社員の離職に係る課題について質問した。



同日の参議院・国土交通委員会では、広島県選出の三上えり参議院議員(議員F)が質疑に立ち、JR西日本・芸備線一部区間において、全国初の「再構築協議会」が立ち上がったことについて質問を行った。

4月3日の衆議院・国土交通委員会では、神谷裕衆議院議員(議員F)が改正「流通業務総合効率化促進法・貨物自動車運送事業法」の質疑に立ち、「物流の2024年問題」への対処やCO2排出量削減の観点から鉄道の利用促進が重要である旨指摘し、斉藤鉄夫国土交通大臣に対し、特に貨物鉄道輸送の位置付けを問うた。



## JR連合は、引き続き連携する国会議員等を通じて各種政策課題の実現に向けて取り組む



JR四国労組第43回定期大会

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

議事では、2024年度の運動方針等が提起され、11人の代議員、特別代議員から安全の確立、人事・賃金制度の改正など労働条件改善に係る要望、エンゲージメント調査結果を踏まえた離職防止の取り組み等に関する質疑を受け、中村鉄平書記長の総括答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。

最後に、大谷委員長の力強い団結がばらうで定期大会を締めくくった。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

議事では、2024年度の運動方針等が提起され、11人の代議員、特別代議員から安全の確立、人事・賃金制度の改正など労働条件改善に係る要望、エンゲージメント調査結果を踏まえた離職防止の取り組み等に関する質疑を受け、中村鉄平書記長の総括答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。

最後に、大谷委員長の力強い団結がばらうで定期大会を締めくくった。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

議事では、2024年度の運動方針等が提起され、11人の代議員、特別代議員から安全の確立、人事・賃金制度の改正など労働条件改善に係る要望、エンゲージメント調査結果を踏まえた離職防止の取り組み等に関する質疑を受け、中村鉄平書記長の総括答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。

最後に、大谷委員長の力強い団結がばらうで定期大会を締めくくった。

JR東海ユニオンは7月4日、静岡市内において第33回定期大会を開催し、新年度の運動方針を確立した。冒頭、執行部を代表して挨拶に立った尾内裕昭中央執行委員長(JR連合副会長)は、組合員の日々の精励に謝意を示したうえで、変化が大きい時代ではあるが、安全の追求や組織活動の活性化、労働条件の向上に取り組むことは不変であり、「中期目標『ユニオン』」の実現に向け運動を展開していく。

## 『ONE TEAM』で運動のさらなる飛躍を

「組織の活性化」「ハートフルカンパニーの実現」を柱とする運動方針が提起され、質疑では22人の代議員等から、人事・賃金制度の見直し等の交渉課題、中央新幹線計画に関する経営課題、世間でDX等が進む中での組合活動・組織活動に関する課題など広範に意見が出された。また、2025年春に実施予定の静岡市

「組織の活性化」「ハートフルカンパニーの実現」を柱とする運動方針が提起され、質疑では22人の代議員等から、人事・賃金制度の見直し等の交渉課題、中央新幹線計画に関する経営課題、世間でDX等が進む中での組合活動・組織活動に関する課題など広範に意見が出された。また、2025年春に実施予定の静岡市

JR九州労組は7月5日、北九州市内において第33回定期大会を開催し、総勢約1500人の出席のもと、「団結・果敢・躍動」をスローガンに掲げ、向こう1年間の運動方針を決定した。吉田祥司中央執行委員長

## JR九州労組第33回定期大会 コロナ禍で傷ついた 自信や誇りを取り戻そう

(JR連合副会長)は、自然災害や人口減少など多くの課題に対し、協力を連携で未来を切り拓いていくことが重要との認識を示し、「これまでの取り組みを着実に前進させ、コロナ禍で傷ついた自信や誇りを取り

JR四国労組は7月5日、高松市内において第43回定期大会を開催し、総勢約140人の出席のもと、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

JR四国労組は7月5日、高松市内において第43回定期大会を開催し、総勢約140人の出席のもと、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

JR連合の定期大会が6月18日に開催されたのを契機に、JR連合の各単組や各地方協議会において定期大会が開催されている。来賓や傍聴の参集もコロナ禍以前の規模に戻し、活気のある大会が各地で開催された。それぞれの大会で確認された運動方針に基づき、安全確立を最優先に、労働力不足をはじめとする取り巻く環境の変化への対応、組織力強化や魅力あるJR産業の実現など、山積する課題の解決に向けた活動が各地で展開されていく。

議事では、「安全の確立」「組織の活性化」「ハートフルカンパニーの実現」を柱とする運動方針が提起され、質疑では22人の代議員等から、人事・賃金制度の見直し等の交渉課題、中央新幹線計画に関する経営課題、世間でDX等が進む中での組合活動・組織活動に関する課題など広範に意見が出された。また、2025年春に実施予定の静岡市

JR九州労組は7月5日、北九州市内において第33回定期大会を開催し、総勢約1500人の出席のもと、「団結・果敢・躍動」をスローガンに掲げ、向こう1年間の運動方針を決定した。吉田祥司中央執行委員長

(JR連合副会長)は、自然災害や人口減少など多くの課題に対し、協力を連携で未来を切り拓いていくことが重要との認識を示し、「これまでの取り組みを着実に前進させ、コロナ禍で傷ついた自信や誇りを取り

JR四国労組は7月5日、高松市内において第43回定期大会を開催し、総勢約140人の出席のもと、2024年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

冒頭、挨拶に立った大谷清執行委員長(JR連合副会長)は、「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する決意を述べるとともに、「JR四国グループの決算も明るい内容となった。JR四国労組としても、昨年策定した『ユニオンビジョン2023』の深度化を図り、責任組合として組合員とその家族の明るい未来の実現に向けて邁進していこう」と呼びかけた。

## JR7単組で2024年度の活動をスタート 安全確立などの主要課題に全力で取り組む JR連合への総括集に向け方針を決定



JR東海ユニオン第33回定期大会

ら必勝の決意表明があった。総括答弁に立った今井孝治書記長(JR連合執行委員長)は、労働組合の必要性について言及し、「責任組合として日々の地道な取り組みをしっかりと進めていこう」と呼びかけた。



JR九州労組第33回定期大会

関係法制見直しの動きについて、「企業の一方的な都合だけで過半数代表制を見直せば、労働者保護ができなくなる」との懸念を示し、連合や友好産別と協力しながら労働者を適切に代表する機能を維持すべきなどの見解を示した。

来ビジョンや今後5年間の具体的な目標を設定した「新・中期労働政策ビジョン2024-2028」が発表されたほか、2025年に施行予定の地方選挙に立候補を予定している山田大輔氏(北九州市議会議員選挙)、山部良二氏(大津町議会議員選挙)に公認証書が授与された。

# JR西労組第36回定期中央本部大会

## 安全を基礎に絆を強め 未来を切り拓こう

JR西労組は7月18日、大阪市において、第36回定期中央本部大会を開催し、約500人の参加のもと、新年度の運動方針を満場一致で決定した。JR連合からは、荻山市朗会長と宮野勇馬企画局長が参加した。



JR西労組第36回定期中央本部大会

大会冒頭、主催者挨拶に立った上村良成中央執行委員長（JR連合副会長）は、頻発する労災に警鐘を鳴らし、ABC運動（A当たり前のことを、Bバカにせず、Cちゃんとやる）を基に「世界一安全な鉄道」を皆で創り上げる決意を述べるとともに、活き活きと働ける職場環境の構築をはじめ、女性参画、民主化を含む組織の強化・拡大、地域に根差した公共交通と政治のつながりなどについて理解と協力を訴えた。

また、荻山会長は、危険な事象が頻発していること

に危機感を高め、10月に開催する安全シンポジウムで知見を深めること、労基法改正の動向に十分に注視しつつ、民主化に不転の決意で取り組むこと、政策課題の解決や労働条件の向上

に引き続き取り組む決意を述べた。質疑では、安全確立、人財不足への対応とキャリアアップのあり方、地方公共交通のあり方と政治の関わり、組織強化等について

意見が出され、羽野敦之書記長（JR連合執行委員長）の総括答弁の後、全ての議案が満場一致で可決された。最後に、上村委員長の団結がんばろうで新年度の誓いを新たにされた。

その後、役員改選が行われ、2014年5月の結成以来、中央執行委員長を務めた菅野氏が退任し、JR採用世代の小林徹志氏と高橋佳昌氏を新委員長・新事務局長とする新執行体制を確立。国鉄採用世代からJR採用世代の世代交代が行われ、最後は新任の小林中央執行委員長が団結がんば



国鉄採用からJR採用に世代交代

ろうで大会を締めくくりに、新生JRユニオンの運動をスタートさせた。

《新執行部（三役）》  
中央執行委員長 小林徹志  
中央執行副委員長 菅野一位  
中央執行副委員長 国井道徳  
中央執行副委員長 齋藤勝彦  
中央執行副委員長 菅井正和  
事務局長 高橋佳昌

「世界一安全な鉄道」を皆で創り上げる決意を述べるとともに、活き活きと働ける職場環境の構築をはじめ、女性参画、民主化を含む組織の強化・拡大、地域に根差した公共交通と政治のつながりなどについて理解と協力を訴えた。

また、荻山会長は、危険な事象が頻発していること

JREユニオンは7月13日、東京都内にて第12回定期大会を開催し、新年度の運動方針を決定するとともに、新執行体制を確立した。

冒頭、挨拶に立った菅野一位中央執行委員長（JR連合副会長）は、「JREユニオンを結成して10年。JR東労組は互解したもので

の、現在は社友会を軸とした労務政策の中で、JR東日本における組合活動は苦しい状況に追い込まれている」と危機感を露わにし、「エ

と呼び掛け、「次代に繋ぐ組織強化・拡大を図っていく」と決意を述べた。

その後、役員改選が行われ、2014年5月の結成以来、中央執行委員長を務めた菅野氏が退任し、JR採用世代の小林徹志氏と高橋佳昌氏を新委員長・新事務局長とする新執行体制を確立。国鉄採用世代からJR採用世代の世代交代が行われ、最後は新任の小林中央執行委員長が団結がんば

ろうで大会を締めくくりに、新生JRユニオンの運動をスタートさせた。

《新執行部（三役）》  
中央執行委員長 小林徹志  
中央執行副委員長 菅野一位  
中央執行副委員長 国井道徳  
中央執行副委員長 齋藤勝彦  
中央執行副委員長 菅井正和  
事務局長 高橋佳昌

「世界一安全な鉄道」を皆で創り上げる決意を述べるとともに、活き活きと働ける職場環境の構築をはじめ、女性参画、民主化を含む組織の強化・拡大、地域に根差した公共交通と政治のつながりなどについて理解と協力を訴えた。

# 医療連絡会 大阪鉄道病院にて基幹労連・病院連絡会と交流

JR連合は6月22日、日本基幹産業労働組合連合会（以下、基幹労連）・病院連絡会とJR連合・医療連絡会の交流会を開催した。基幹労連は鉄鋼、造船、非鉄金属などの関連産業が結集した産業別労働組合であるが、加盟組合には企業立病院も多く、医療現場の環境改善にも取り組んでいる。

当日は、基幹労連から医療従事者・担当役員などがJR西日本・大阪鉄道病院に来訪。JR連合からは担当役員、JR西労組の役員・組合員などが参加し、大阪鉄道病院の見学と意見交換を行った。

大阪鉄道病院では、参加者の職種毎に、一般病棟（看護師）、放射線科・薬剤部（放射線技師・薬剤師等）、検査科（臨床工学技士・臨床検査技師等）、リハビリ病棟（理学療法士等）に分かれて見学を実施。それぞれ大阪鉄道病院に勤めるJR西労組の役員・組合員が案内した。同一職種の医療現場を見学したことから、参加者からは様々な質問が寄せられるなど、有意義な時間となった。

その後は意見交換会を開催。見学中に聞けなかった疑問・質問をはじめ、事前に共

有した各社・病院の労働条件などを基に、悩みの共有や事例紹介など、活発な意見交換が行われた。特に「育児休職・短時間勤務」「休日・宿直」「ペイシメント・ハラスメント対応」などには大きな関心が寄せられて大いに盛り上がったほか、福利厚生、院内保育、組合活動（レク活動の工夫）など、幅広いテーマで積極的に意見が交わされた。

まとめにあたり、基幹労連の綱島和彦中央副執行委員長は、「労働組合は現場の状況を把握して活動することが基本であり、今回の見学や意見交換で得た現場目線の知見を各組織でしっかりと発揮してほしい」と訴えて閉会した。



幅広いテーマで有意義な意見交換が行われた

JR連合からは荻山会長と相良夏樹組織局長が参加。挨拶に立った荻山会長は、JR東日本における社友会を通じた労働組合に拠らない労務管理に対して警鐘を鳴らし、労働組合の重要性を喚起する取り組みを展開していく旨を述べた。

議事では運動方針等が提起され、代議員から、組織拡大については結果を求めたいかなければならないとの強い決意表明もなされた。執行部の中間答弁、菅井正和事務局長による集約答弁を経て、全ての議案は満場一致で可決された。

その後、役員改選が行われ、2014年5月の結成以来、中央執行委員長を務めた菅野氏が退任し、JR採用世代の小林徹志氏と高橋佳昌氏を新委員長・新事務局長とする新執行体制を確立。国鉄採用世代からJR採用世代の世代交代が行われ、最後は新任の小林中央執行委員長が団結がんば

ろうで大会を締めくくりに、新生JRユニオンの運動をスタートさせた。

《新執行部（三役）》  
中央執行委員長 小林徹志  
中央執行副委員長 菅野一位  
中央執行副委員長 国井道徳  
中央執行副委員長 齋藤勝彦  
中央執行副委員長 菅井正和  
事務局長 高橋佳昌

「世界一安全な鉄道」を皆で創り上げる決意を述べるとともに、活き活きと働ける職場環境の構築をはじめ、女性参画、民主化を含む組織の強化・拡大、地域に根差した公共交通と政治のつながりなどについて理解と協力を訴えた。

また、荻山会長は、危険な事象が頻発していること



「たすけあいの輪をむすぶ」  
こくみん共済 coop は、次のステージへ

公式キャラクター ビットくん

たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済〈全労済〉  
全国労働者共済生活協同組合連合会

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

## 役員紹介



九州旅客鉄道労働組合  
（JR九州労組中央本部）  
中央執行委員  
井口祥一さん

JR九州労組中央本部の「井口（いのくち）」です。普段、「いぐち」と呼ばれることが多くあるの

で、私を見かけた際には是非「いのくち」と呼んでいただけると嬉しい

です。私は2009年にJR九州へ入社し、主に電力関係の業務を行ってき

府が10年で貨物鉄道コンテナ輸送量を倍増させることを目標に掲げた。現実的な

提言を積み重ね、達成しよう」と奮起を促した。

質疑応答では、組織拡大について各地区本部から強い決意が述べられた。また、

中国地方協議会第32回定期総会

組織の充実・強化に向け

引き続き連携を

JR連合中国地方協議会

組広島地本執行委員長が

石松議長による心あわせ